

はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

ステークホルダーへの価値の向上 074

∴ コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

Corporate Governance

コーポレートガバナンス

— 高い透明性を確保し、信頼され続ける企業に —





はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

ステークホルダーへの価値の向上 074

❖ コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

コーポレートガバナンス

高い透明性を確保し、信頼され続ける企業に

コーポレートガバナンス（企業統治）の充実は、日産のCSR推進において要となる取り組みです。私たちはCSRをより実効性のあるものとするため、経営陣の責任を明確にした目標や方針をステークホルダーに公表し、その達成状況や実績をできるだけ早く開示しています。日産は経営の透明性を高いレベルで維持し、ステークホルダーの皆さまとより強固な信頼関係を築いていきたいと考えています。

❖ 日産ウェイ

❖ 独自の企業文化を反映した行動指針「日産ウェイ」

異なる文化や多様性（ダイバーシティ）を尊重しながら価値を創出する企業文化こそ、日産の自動車メーカーとしての強みです。そして、その中核をなすのが「日産ウェイ」です。「日産ウェイ」は、「クロスファンクショナル・クロスカルチュラル」や「コミット アンド ターゲット」など私たちがガルノーとのアライアンス（連携）を通して復活する過程で得たエッセンスであり、今後の成長を確かなものとするための行動指針です。アライアンスに基づく相互作用が、ボーダーレス時代にふさわしい経営哲学や企業風土の醸成につながっています。

❖ 企業の持続的成長は一人ひとりの意欲から

「日産ウェイ」の基本は、つねにお客さまに焦点を当て、継続的に価値を創出しながら業績向上を実現していくことです。この目標を実行するための行動指針として、5つの「心構え」と5つの「行動」を定めており、2006年度からは日本語、英語、フランス語、中国語、ドイツ語、スペイン語、オランダ語、ロシア語の全8か国語でグローバルに共有しています。日産ウェイを実践するうえで、私たちが大切にしているのが“The power comes from inside”「すべては一人ひとりの意欲から始まる」という考え方です。社員一人ひとりが今自分は何をすべきかを考え、その達成に向けて挑戦することが日産の成長の原動力になると考えています。



はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
ステークホルダーへの価値の向上	074
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

「すべては一人ひとりの意欲から始まる」

焦点はお客さま、原動力は価値創造、成功の指標は利益です。

Mindsets 心構え

- 1. Cross-functional, Cross-cultural**
クロスファンクショナル・クロスカルチュラル
異なった意見・考えを受け入れる多様性
- 2. Transparent** トランスペアレント
すべてを曖昧にせず、分かりやすく共有化
- 3. Learner** ラーナー
あらゆる機会を通じて、学ぶことに情熱を。
学習する組織の実現
- 4. Frugal** フルーガル
最小の資源で最大の成果
- 5. Competitive** コンペティティブ
自己満足に陥ることなく、つねに競争を見据え、
ベンチマーキング

Actions 行動

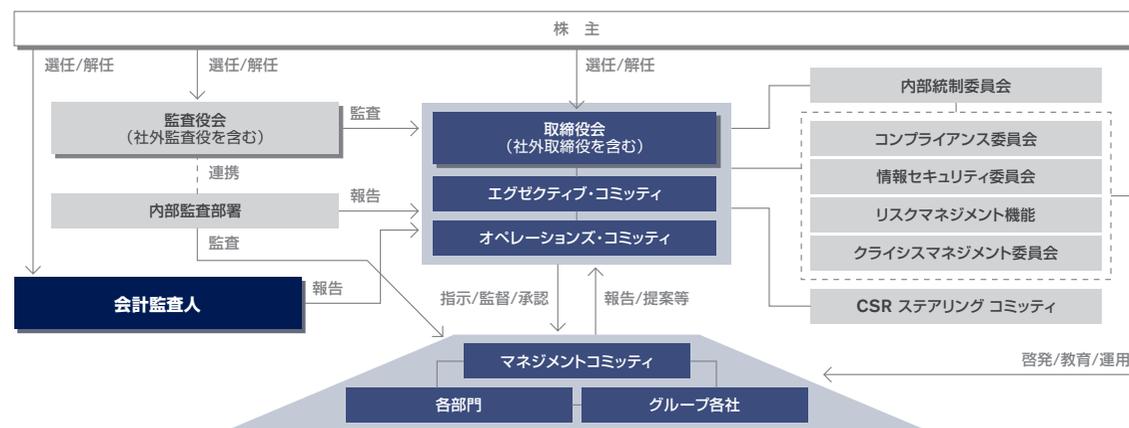
- 1. Motivate** モチベート
自分自身を含め、人のやる気を引き出していますか？
- 2. Commit & Target** コミット アンド ターゲット
自ら達成責任を負い、
自らのポテンシャルを十分に発揮していますか？
- 3. Perform** パフォーマンス
結果を出すことに全力を注いでいますか？
- 4. Measure** メジャー
成果・プロセスは誰でも分かるように測定していますか？
- 5. Challenge** チャレンジ
競争力のある変革に向けて継続的に挑戦していますか？

内部統制システム・コンプライアンス

公正で透明性のある企業活動を維持する内部統制システム

日産は、社内外に対して透明性の高い経営を重視するとともに、明確なコミットメントを達成するために、一貫性のある効率的な経営を目指しています。この基本理念のもと、取締役会では、会社法に定める内部統

日産の内部統制システムの概要



はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
ステークホルダーへの価値の向上	074
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

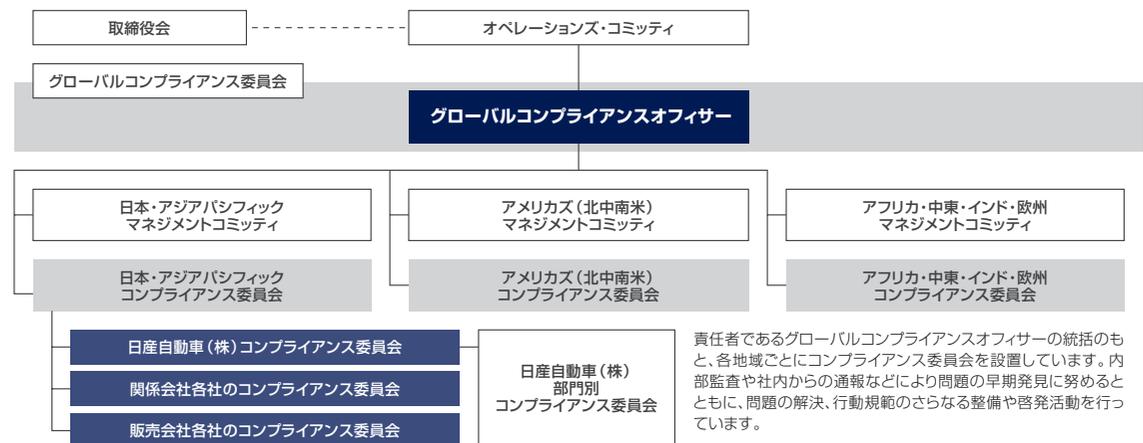
制システムおよびその基本方針を決議しました。取締役会はその責任において、体制と方針の実行状況を継続的に注視するとともに、必要に応じて変更・改善を行っています。また、内部統制全般について担当する取締役を置いています。

日産では、監査役会制度を採用しています。監査役は、取締役会への出席のほか、取締役などから職務状況の聴取などを行い、取締役の職務執行全般にわたり監査をしています。また、定期的に会計監査人から監査の計画および実施結果の報告を受けるとともに、意見交換を行い、その妥当性を判断しています。同様に、内部監査部署からも定期的に報告を受け、監査の参考としています。

： 倫理的な企業活動を支える法令順守の枠組み

すべての社員が高い倫理観を持ってコンプライアンス（法令順守）を実践することが、日産のCSR推進の基盤です。2001年には、日産グループすべての社員がどのように行動すべきかを「日産グローバル行動規範」として定め、着実に展開しています。さらに「グローバルコンプライアンス委員会」を3つの地域ごとに設置して、違法行為や非倫理的行為を未然に防ぐグローバルな体制を構築。法令・倫理順守機能を高めるため、各拠点が連携しながらコンプライアンスの周知徹底に取り組んでいます。

： 2009年度 グローバルコンプライアンス委員会組織



： 日産グローバル行動規範

信条

私たちは、お客さま・従業員・株主・取引先・地域社会に対し、つねに実直・誠実・公正・敬意の姿勢を持って接します。下記行動規範は、日産グループに働くすべての従業員に適用となります。また、われわれ一人ひとりはこの行動規範をしっかりと維持・改善していく責任があります。

グローバル行動規範(抜粋)

1. 法律・ルールの順守
2. 利益相反行為の禁止
3. 会社資産の保護
4. 公平・公正な関係
5. 透明性と説明責任の確保
6. 多様性の尊重と機会平等
7. 環境保護
8. 実践・報告の義務

はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

ステークホルダーへの価値の向上 074

⋮ コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

⋮ グループ・グローバルに推進するコンプライアンス啓発活動 ⋮

日産は世界の各拠点に、コンプライアンス施策を進める担当部署と推進責任者を配置し、コンプライアンス意識の醸成に努めています。また、すべての社員が行動規範を正しく理解し、透明かつ公正な判断によって行動するための教育を重視しています。

日本では、役員を含めたすべての社員を対象に「日産行動規範(日本版)～わたしたちの約束～」(2004年4月制定)に関するe-ラーニングまたはVTR教育を行い、受講後には規範順守の誓約書へ署名を求めるなど、周知徹底を図っています。また2007年度には、法改正などに対応するため、行動規範の改定と全社員への再教育を実施し、コンプライアンスをさらに強化しています。

北米では法令順守の全社員教育を定期的実施し、欧州では各国共通のガイドラインを作成。一般海外地域でも、各国の事情を考慮したガイドラインを作成して周知活動に取り組んでいます。グループ各社でも同規範を基準とした行動規範を導入しています。

また、「グローバル内部者取引防止管理規程」や「個人情報管理規程」などの社内規程を整備し、教育・研修プログラムを通じて、周知徹底と啓発に取り組んでいます。

⋮ 人権尊重と差別・いやがらせの禁止 ⋮

日産は、「日産グローバル行動規範」の第6条「多様性の尊重と機会平等」において、社員や取引先、お客さま、地域社会の多様性を受容、評価、尊重し、差別やいやがらせは、どんな形、程度にせよ容認しないことを定めています。役員および社員は、相互の人権を尊重し、人種、国籍、性別、宗教、身体障がい、年齢、出身、その他の理由で差別やいやがらせを行ったり、その状態を容認することを禁止しています。また、職場におけるセクシュアル・ハラスメントやその他のハラスメント(いやがらせ)を許さないという立場で、男女を問わず、すべての社員が被害に遭わないよう、その防止に努めています。

⋮ 健全な企業活動のための内部通報制度 ⋮

日産は社員一人ひとりがコンプライアンスを徹底し、企業活動が正しく行われるよう、内部通報制度「イージーボイスシステム」を採用しています。社員が意見・質問・要望を会社に直接伝える仕組みを整え、業務や職場の改善はもとより、企業倫理を順守する風土づくりに役立てています。2006年4月に施行された公益通報者保護法に則した通報者保護の観点も織り込み、日本の日産グループ各社でも導入されています。



「日産行動規範(日本版)
～わたしたちの約束～」

はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

ステークホルダーへの価値の向上 074

◆ コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

◆ 独立した組織による効率的な内部監査を実施

日産は、COO（最高執行責任者）直轄の独立したグローバル内部監査機能を設置しています。各地域では統括会社に設置された内部監査部署が担当しており、具体的な監査活動をチーフインターナルオーディットオフィサー（CIAO）が統括することにより、グループ・グローバルに有効かつ効率的な内部監査を実施しています。

◆ リスクマネジメントの基本方針と管理体制

日産は、リスクを「日産グループの事業目標達成を阻害する要因」と定義し、リスクをいち早く察知・評価し、必要な対策を検討・実行することにより、発生率の低減と発生した場合の被害を最小にとどめる努力をしています。リスク管理はつねに具体的な対策とつながった、実質的な活動でなければなりません。日産では「グローバルリスク管理規程」に基づき、グループ全体で活動を推進しています。

事業環境の変化に迅速に対応するため、リスク管理の専門部署による役員層へのインタビューを毎年実施。さまざまなリスクの洗い出しを行い、リスクマップの見直しを行います。経営会議において、全社的に管理すべきリスクと各リスクの管理責任者を決定し、責任者のリーダーシップのもと、対策に取り組みます。さらに、それらの進捗状況は内部統制担当取締役が取締役会に対して適宜報告しています。

個別のビジネスリスクに対しては、発生時の影響と発生時の頻度を極小化するため、各部門の責任において、本来業務の一環として必要な予防対策を講じるとともに、発生時の緊急対応策を整備しています。国内外の連結会社とも連携を深め、グループ全体でリスクマネジメントの基本的なプロセスやツールの共通化、情報の共有化を進めています。

主な活動実績と今後の課題

2008年度は以下のようなリスク対策を行いました。

1. 大規模災害対策

地震などの大規模災害に備えて、連結会社も含めた建物・設備の耐震補強を順次実施してきました。また、災害後の事業継続計画を策定するため、主要な商品や工程を選定し、緊急時の復旧に必要なリソースの洗い出しや代替工場の検討を行いました。

これらの対応をより円滑に進めるため、南関東直下型地震を想定したシミュレーション訓練を全社災害対策本部長を務めるCOO参加のもと、毎年シナリオを変えて実施しています。明らかになった課題については、マニュアルなどに適宜反映させています。

はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

ステークホルダーへの価値の向上 074

◆ コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

2. 新型インフルエンザなどの感染症対策

近年発生が危惧されている新型インフルエンザについては、全社的リスクマネジメントの枠組みの中で検討チームを編成し、社員に対する啓発活動(パンフレットの作成と全社員への配布)、対応マニュアルの作成、それらツールのグローバル展開、非常用機材の備蓄などの対策を進めています。

3. 生産継続を阻害するリスク対策

大規模災害以外にも生産の継続を阻害するさまざまなリスクが存在します。そうしたリスクに対応するため、労働災害、品質問題、生産能力などの観点からも対策を講じています。

また、主要なサプライヤーに対してアンケートや訪問調査を実施し、地震対策状況の把握や情報の共有化を図るとともに、万一のときの対応について検討を始めています。

4. レピュテーションリスク対策

会社の評判に関するリスクに対しては、重要な法令などの順守について、社内セミナーや啓発活動、またそれらに関する監査を継続的に実施することで予防に努めています。

今後は、昨今の金融危機を受け、流動性や為替など従来の想定を超えるようなリスクが顕在化していることから、新たな課題に対する対応の強化を図っていきます。

◆ 個人情報保護の徹底と情報セキュリティに対する取り組み ◆

日産では、「個人情報の保護に関する法律」を順守し、お客さまの情報を適正に扱うことが社会的責務であると認識し、社内の管理体制およびルール、手続きを整備した個人情報管理規定を策定し、日本国内のグループ会社において徹底しています。

また、情報セキュリティ全般に対する取り組みの基本方針である情報セキュリティポリシーをグローバルに共有化し、情報セキュリティ委員会のもと、社内外の情報漏えい事案などをもとに、情報セキュリティの強化に必要な対策も随時実施しています。さらに、その徹底のため、情報セキュリティの社内教育を毎年継続的に実施し、周知・定着を図っています。



◆ <http://www.nissan.co.jp/SITEINFO/privacypolicy.html>

日産自動車(株)における個人情報の取り扱いに関する詳しい情報は、上記のウェブサイトに記載しています。あわせてご覧ください。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
ステークホルダーへの価値の向上	074
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

より良き地球市民を目指して、「国連グローバル・コンパクト」へ参加

日産自動車は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に2004年1月以降、参加しています。「国連グローバル・コンパクト」は、国連のコフィー アナン事務総長(当時)が1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)で提唱した、企業による自主行動原則です。

日産では、下記10原則に基づくさまざまな活動をいっそう強化するために、CSRマネジメントを進めています。

グローバル・コンパクトの10原則

人権

- ①企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
- ②人権侵害に加担しない。

労働

- ③組合結成の自由と団体交渉権を実効あるものにする。
- ④あらゆる種類の強制労働を排除する。
- ⑤児童労働を実効的に廃止する。
- ⑥雇用と職業に関する差別を排除する。

環境

- ⑦環境問題の予防的なアプローチを支持する。
- ⑧環境に対していっそうの責任を担うためのイニシアチブをとる。
- ⑨環境を守るための技術の開発と普及を促進する。

腐敗防止

- ⑩強要とわいろを含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」への参画

日産は、「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」に加盟しています。WBCSDは、「経済成長」「環境保全」「社会的公平」という3本の柱による持続可能な発展に対して、共有の決意を持つ国際的な企業の連合体です。現在、世界35カ国を超える国から、20以上の業種にわたる約200の企業が参加しています。

産業界の貢献を実現するためにWBCSDが実行すべき目標は以下のとおり。

- ・産業界におけるリーダーシップ—持続可能な発展に向け産業界を導く存在となること
- ・政策策定—持続可能な発展に産業界が貢献するための枠組みの構築を目指し、政策決定に参画すること
- ・ビジネス・ケースの実践—持続可能な発展に向けた産業界としての取り組みを策定、実践すること
- ・ベスト・プラクティスの提示—持続可能な発展のための問題解決に対する産業界の進捗を提示し、WBCSDメンバー間でその先進的な事例を共有すること
- ・グローバルな展開—開発途上国の持続可能な将来に貢献すること



<http://www.unglobalcompact.org/>



<http://www.unic.or.jp/globalcomp/index.htm>

国連グローバル・コンパクトに関する詳しい情報は、上記の公式ウェブサイトをご覧ください。



World Business Council for Sustainable Development



<http://www.wbcd.org>

持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)に関する詳しい情報は、上記の公式ウェブサイトをご覧ください。

はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

ステークホルダーへの価値の向上 074

◆ コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

◆ ルノーと日産のアライアンス（提携） ◆

◆ 力の結集、そして成果へ、独自の協力関係を基盤に最大限のシナジーを追求 ◆

1999年3月27日に締結されたルノーと日産のアライアンス（提携）は、世界に類を見ない企業アライアンスの成功例として10周年を迎えました。このパートナーシップは、互いの企業文化やブランドを尊重し合うことを基本とした、日本とフランスの企業間で結ばれた初のアライアンスです。両社は今後も共通の目標と理念を掲げ、一貫性のある共通の戦略によって、ともに利益ある成長を目指します。

アライアンス・ビジョン

2004年3月、アライアンス5周年を機に、両社のアライアンスのさらなる飛躍に向けた決意を表明するとともに、両社で共有すべき価値観および理念について再確認しました。

RENAULT NISSAN



「メガーヌ」(ルノー)

「キューブ」(日産)

ルノー・日産アライアンス

アライアンスの普遍的な理念

ルノーと日産のアライアンスは、株式を相互に保有し合う2つのグローバル企業が、下記の基本理念の実現を通じ、力を結集して高い成果を目指す、世界に類のないパートナーシップである。

- I. 双方に有益 (Win-Win) な結果をもたらすことを目的として、建設的なアプローチにより両社の強みを相互に活用することで、最大限のシナジーを創出する。
- II. おのおのの企業の自律性を確保し、かつ、おのおのの企業アイデンティティおよびブランド・アイデンティティを尊重し合う。

アライアンス・ビジョン—目指すべき姿

共有すべき志

- ・アライアンスは、世界の持続可能な発展、すなわち環境・社会的責任・経済の調和のとれた発展に貢献する。
- ・アライアンスは、それぞれの株主に対し魅力的なリターンをもたらす。
- ・アライアンスは、魅力的な仕事とやりがいのある挑戦を社員に提供し、つねに優秀な人財を引きつけ、グローバルな視野と起業家精神を育成する。

マネジメント指針

- ・アライアンスは、相互の信頼と尊敬および高い透明性に基づいている。
- ・アライアンスの普遍的な理念は、以下のとおり世界の模範となるような企業統治を実践する。
 - 明確な意思決定による迅速な実行、結果に対する明確な責任、意欲的な水準の業績を目指す。
 - 両社の強みを相互に活用し、双方に有益 (Win-Win) なシナジーを創出することで効率の最大化を図る。

3つの目標

アライアンスは、利益ある成長戦略を策定・実行し、以下3つの目標達成を目指す。

1. 各地域、各市場セグメントで、製品品質、魅力品質、販売・サービス品質の3分野において、ベスト3に入る自動車グループであるとお客様から認識されること。
2. おのおの得意とする特定の領域で責任あるリーダーシップを発揮し、将来的に重要な技術で、世界のベスト3に入る自動車グループになること。
3. 高い営業利益率を維持し、つねに成長することにより、両社の営業利益合計額が、世界の自動車グループ中でつねに3位以内に入る企業グループになること。

はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

ステークホルダーへの価値の向上 074

◆ コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

アライアンスのさらなる強化

2008年、ルノーと日産のグローバル販売台数は600万台を超え、世界第3位の自動車グループとなりました。今日、世界的な経済危機に見舞われている自動車業界において、ルノーと日産はアライアンスというユニークな競争優位性を持っています。アライアンス締結から10年を経て、両社はこの協力関係を新たな段階へと発展させることを決めました。それにとめない、10年間に培われた異文化間のマネジメントや経験の共有から得たノウハウを最大限に活用するための小規模な専門チームを設置します。ダイバーシティの精神のもと、新チームにはルノーから5名、日産から6名が参加します。

若手技術者がともに技術力向上に挑む「アライアンス・エンジニア交流プログラム」

ルノーと日産は、技術面での関係強化を目的とした「アライアンス・エンジニア交流プログラム(AEEP)」を2005年度から実施しています。AEEPでは両社から選抜された若手エンジニアがペアを組み、半年から1年をかけて共通の課題に挑戦します。2008年度も4～6月に4件*のAEEPがスタートしました。AEEPを通して得られた新たなシナジーの可能性については両社の担当役員に報告され、将来の共通技術プロジェクトの達成やアライアンス人財の育成に活用されます。

*車両開発、物流、製造のクロス・カンパニー・チームおよび品質のファンクショナル・タスク・チーム



<http://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/PROFILE/ALLIANCE/RENAULT01/>

ルノーとの提携に関する詳しい情報は、上記のウェブサイトに記載しています。あわせてご覧ください。



「アライアンス・エンジニア交流プログラム」

Message from Our Alliance Partner

アライアンス担当者からのメッセージ 地理的拡大の成功の鍵となるアライアンス



南アフリカ・ルノー
社長
グザビエ ゴビーユ

お互いに対する強い信頼感と尊敬の心が、ルノー・日産アライアンスというユニークな企業提携の重要な推進力となっており、南アフリカにおける両社の活動に多大な価値をもたらしています。私たち南アフリカ・ルノーでは、個々に活動するより協力した方がはるかに効果的であるということ、これまでの業務を通じて社員一人ひとりが学びました。南アフリカ日産自動車会社との協力関係なくして、今日あるような成果は到底成し遂げられなかったことでしょう。ルノー・日産のアライアンスは名目だけでなく、確実に機能しています。こうした機会に恵まれたことを、私たちは大変幸運に思っています。